

なり、

〔倭訓栞前編二〕あさけゆふけ。朝食夕食の義也、古事記の歌に見ゆ、饗飧を訓すべし、今も信濃の

そのはらふせやのあたりにては、朝飯を上下通じてあさけといへり、

〔類聚名物考飲食四〕朝夕餐 あさゆふのめし

賜朝夕餐は、今江戸にては御臺所を賜はるといふ是なり、たゞ單に朝夕餐といふは、つねに人のものする朝夕飯なり、

〔延喜式八〕祈年祭略中

水分坐皇神等能前爾白久中略皇神等爾初穗波穎爾汁爾毳閉高知毳腹滿雙氏稱辭竟奉氏遺波平皇

御孫命能朝爾御食夕爾御食能加牟加比爾長御食能遠御食登赤丹穗爾聞食故、皇御孫命能宇豆乃幣

帛稱辭竟奉久登諸聞食登宣、

〔侍中群要五〕定詞

晝御膳謂朝夕膳

〔禁秘御抄上〕一御膳事

凡御膳、大床子御膳上古朝夕、近朝、餉御膳、朝夕皆一度供之、此御膳等近代主上不著、中朝巳時夕

申時之由、寛平遺誠也、但三度供之間、近代晝未時、夕入夜敷、

〔侍中群要二〕日中行事

午一剋供朝膳事

藏人式云、午一刻、大炊内膳主水造酒、采女等寮司、及進物所之供御膳、采女傳取捧進女藏人傳字當

在取奉、女藏人取奉更衣、又進於御了、更衣女藏人撤却、采女受机各返授所司、次主水司供御嗽、采女

捧持、更衣女藏人傳取供於御了、撤却返授同前者、定男陪膳番次文云、先觸女房、若有闕怠、守次供